オヤジたちの国際貢献（18）

2022−2024

皆様のご支援で新しいトイレと手洗い場ができました

JMAS

Japan Mine Action Service

▶目次

- ▶発刊に寄せて
- ▶2022－2024概観
- ▶カンボジア
- ▶ラオス
- ▶パラオ
- ▶ミクロネシア
- ▶本部
- ▶会勢概要
- ▶ご支援のお願い
- ▶研修・見学・講演・取材申し込み受付

JMASの2022年4月～2024年3月の活動国

▶ 発刊に寄せて

会長　山崎幸二

この度、岡部会長のあとを受けて会長に就任いたしました。

退職自衛官を中心として発足したJMASは2002年にカンボジアで活動を開始して以来、本年で22年目を迎えます。

この間、戦争や紛争で残された地雷・不発弾等の爆発物の処理、地域復興支援、環境改善等の事業に現地の人と共に取り組んで参りました。各国からはその貢献に対して高い評価と信頼を得ております。これら活動は皆様のご支援・ご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

この「オヤジ達の国際貢献（18）」は、皆様に2022～2023年度のJMASの活動について写真と簡潔な記述により報告するものです。

2022年は、カンボジア、ラオス、パラオ、ミクロネシアの4カ国において着実に成果を納めてきました。残念ながら2023年当初、不適切な会計事案が発覚し、一部の事業を除き活動の中断を余儀なくされました。皆様には大変申し訳なく思っております。心よりお詫び申し上げます。会は再発防止に向けた各種施策を速やかに講じ、2023年12月からはパラオで爆発性戦争残存物処理事業を、カンボジアでは地雷・不発弾等の処理と生活環境改善事業を、また2024年3月からはミクロネシアで戦没船油漏れ対策事業を再開しました。

JMASの活動も大きな節目である20年が経過し、各地での事業の長期化に加え、国際貢献のあり方も変化してきております。時代のニーズに合わせ我々の活動、事業内容も柔軟に対応していかなければなりません。

今後は、「平和と安全を創造」すると同時に、その場で「街づくり」や「人づくり」を行い、「安全で豊かな社会の創造」に貢献することを重視して事業を展開して参ります。また、日本人の誠意と真心を現地で働く人間の姿として表現したいという設立の理念を忘れることなく、活動に取り組んで参る所存です。

今後とも皆様方のご理解、ご支援、ご声援をよろしくお願いします。

理事長　岸川公彦

ようこそ「オヤジ達の国際貢献（18）」へお越しくださいました。JMAS理事長の岸川です。

先ずは、日頃からJMASの活動にご理解とご支援を頂いている皆様に心より感謝申し上げます。おかげさまで、現在、カンボジア、パラオ、ミクロネシアそして東京において活動し、日々「安全で豊かな社会の創造」に向け取り組んでいるところです。

このような中、昨年（2023年）は、不適切な会計処理事案の発覚を受け、会として多くの事業を中断ぜざるを得ない事態を招いたことに関し、理事長としてその責任を痛感しており、大変申し訳なく思っております。本事案を受け、昨年一年間を通じ再発防止に向けた抜本的かつ総合的な施策を講じて参りました。おかげさまで、昨年（2023年）末以降、関係各機関等からのご理解とご協力を得て、逐次事業を再開している状況です。

また、本事案は、「守勢期」を迎えた当会にとって、2025年に大きな結節を控えたカンボジアにおける今後の事業のあり方、ウクライナ復興支援における地雷・不発弾処理への対応さらには年々厳しさを増しつつある組織の人材・財務態勢のあり方等々、組織としての意義・役割、現状の課題や環境の変化等を踏まえた今後の組織のあり方について、改めて考える貴重な機会でもあったと考えています。

これらを踏まえ、2024年は、現行各事業の安全かつ着実な実行に務めるとともに、将来ビジョン「JMAS2030」で掲げた「安全で豊かな社会の創造」を目指して、現行事業のさらなる充実を図るとともに、新たな事業の開拓にも積極的に取り組んで参ります。

改めて今後とも当会に対するご理解、ご支援そしてご協力をお願いいたします。

▶2022-2024概観

1　世界の地雷不発弾（ERW）問題の現状

Landmine Monitor Report 2023

オタワ条約加盟国	**164の加盟国、33の未加盟国（2023年12月時点）**
世界の目標	～2025年処理目標国 28　、以降の目標国4
地雷汚染国	60の国と地域（33の加盟国、22の非加盟、5の地域）
地雷/*ERW被害者	2022年　死傷4,710人　　死者1,661人　傷者3,015人 民間人85%　　子供49%
死傷者500人以上	非締約国：シリア834人（3年連続年間最多） ミャンマー500人以上 締約国：ウクライナ608人、イエメン500人以上、
重度汚染国 （100㎢以上）	アフガニスタン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、カンボジア、 クロアチア、エチオピア、イラク、トルコ、ウクライナ
2022年世界での 地雷処理結果	除去締約国：処理面積219.3㎢　　169,276個の対人地雷処理 （参考：2021年　132.52㎢　117,847個）
対人地雷使用者	国家　締約国ウクライナ　非締約国：ミャンマー、ロシア
	武装集団：コロンビア、インド、ミャンマー、タイ、チュニジア その他アフリカ　サヘル地域および隣接国のGp
地雷除去完了	30の加盟国、1の非締約国、1の地域
処理資金額	2022年　約9億1,350万米ドル　2021年に比し、3億1,450万米ドル（52%）の増　（1億6,230万米ドルをウクライナ活動に充当）
2025年 5条義務完了予定	2025年までに期限を迎える国：20ヵ国 2025以降期限を迎える国：13ヵ国　イラク(2028年)、 クロアチア(2026年)、スリランカ(2028年)、パレスチナ(2028年)、 2025以降へ期限延長要求国：セネガル(2026年)、 ボスニア・ヘルツェゴビナ(2027年)、南スーダン(2026年)
対人地雷生産国	イラン、インド、ミャンマー、パキスタン、ロシア、韓国、北朝鮮、 キューバ、シンガポール、中国、ベトナム、アルメニア

＊ERW（Explosive Remnants of War）

2　JMAS 2022－2024活動概観

（1） 全般

クラウドファンディングで整備されたトイレの引き渡し

JMASは、カンボジア、ラオス、パラオ、ミクロネシアの4ヶ国で、地雷・不発弾及び海中の爆発物等の処理、農業支援、農地整備支援、戦没船の漏油対策等、生活環境の改善を支援する事業を行って参りました。2022年には設立20周年という大きな節目を迎え、これを機に将来を見据えた将来ビジョン「JMAS2030」を策定し、安全で豊かな社会の創造に貢献することを重視して事業を展開することとしました。残念ながら2023年当初、外務省から不適切な会計処理を指摘され一部の事業を除き活動を中断しました。この間、会は各種再発防止施策等を講じ、2023年12月からは、パラオ及びカンボジアで、2024年3月からはミクロネシアで事業を再開しました。

（2） 成果の概要

20周年事業の一つとして、初めてクラウドファンディングに挑戦し、カンボジアバンテアイミアンチェイ州の地雷処理活動地域周辺の4つの小学校に清潔なトイレと手洗い場等を整備しました。

カンボジアでは、地雷を安全化した地域での農業支援、農地整備支援等により米の収穫量が増加しています。

ラオスでは、クラスター子弾除去機を用いてクラスター子弾を機械処理し、処理効率が大きく向上しています。

観光立国パラオにおいては、ヘルメットレックの爆雷の処理を中心として活動を実施しています。

また、ミクロネシアでは、旧日本軍の艦艇や民間徴用船が沈んでおり、これらに滞留する漏油回収、戦没船の状況調査等を行い環境汚染対策及び環境資源保護に寄与しています。

2022-2023年度活動成果総括表

区　　分	2022年度	2023年度
地雷・不発弾処理数	1,215発	243発
ｸﾗｽﾀｰ子弾処理数	905発	51発
同上安全化面積	957ha （9.57㎢）	154ha （1..54㎢）
処理技術教育	116名	66名
危険回避教育	230回 4,898名	12回 1,851名
学校建設敷地整備	1ha	－
道路整備	2.3Km	5.7Km
側溝整備	6Km	7.1Km
水路新設	－	2.5Km
暗渠構築	2カ所	1カ所
戦没船状況調査	8隻	6隻
爆雷処理	56発	21発
滞留油回収	14,712 L	5,20L
潜水等技術移転	17名	18名

カンボジア
（初のクラウドファンディング、地雷処理、農業支援、危険回避教育、小学校建て替え）

クラウドファンディング による
トイレ等整備

対人地雷除去機による
処理活動

支援農家の米の収穫

危険回避教育

小学校建て替え

新しい小学校で勉強

ラオス
（不発弾探査と機械処理）

ラージループによる探査

機械処理

パラオ
（ヘルメットレックの爆雷処理）

バルーンを利用して海上へ

爆雷の焼却処分

ミクロネシア
（沈船からの油回収）

油溜まり

吸引ノズルで油を回収

・カンボジア王国

1　現地の声

軽部真和代表①

カンボジア人と日本人スタッフが一体一丸となって、厳しく楽しく誠実に任務達成に向けて日々取り組んでいます。

中野雅仁専門家③

地雷処理に携わり今年で6年。自慢は、この間無事故だった事です。これからもご支援よろしくお願いします。

住友紀允専門家③

農業支援3年間の成果が徐々に現れ、苦境に立たされていた農家の方々に明るい未来が見え始めています。

下薗修良専門家②③

24年度がSVC事業にとり、最後の年になりますが、終わりよければ全てよし！で頑張ります。

アム・ヴィトゥー
プロジェクトマネージャー②

カンボジアで生まれ、カンボジアを守り、その発展のために、これが僕のやるべき仕事です。JMASの一員として頑張ります。

堀井勝利専門家③

カンボジアにてJMASユニホームを着て活動できる喜び、日本代表として任務完遂に向けて。

藤原彰専門家④

現地スタッフ、CMAC隊員とコミュニケーション取りながら安全な処理を心掛けてまいります。

米司綾逸専門家④

カシューナッツが稔り、大きなキャッサバが取れるようになりました。スタッフの経験が地域の力になることを期待します。

横山圭介総務①

カンボジアが地雷や不発弾の脅威から解放されていることを実感するとともに、そこにやりがいを感じます。

2　事業活動

（1）　バンテアイミアンチェイ州における地雷・不発弾処理を伴う復興支援事業（地図③）

ア　3個の編成・装備の異なるチームを処理地域の地形・植生等に応じ適所で運用し成果を上げています。また、専門家は現地の小学校・コミューン等で危険回避教育を実施し、地雷・不発弾の事故ゼロを目指しています。

地雷探査に取り組む隊員

住民からの回収要請に対応

小学校での危険回避教育

JMASノートを配り住民に注意喚起

イ　バンテアイミアンチェイ州における地雷・不発弾処理事業成果（2023年12月～2024年3月）

処理面積	対人地雷 （うち回収要請）	対戦車地雷 （うち回収要請）	不発弾 （うち回収要請）	危険回避教育 受講者 （回数）
51．0ha	54個 （15個）	1個 （1個）	151発 （100発）	489名 （8回）

ウ　バンテアイミアンチェイ州における農業支援活動
JMASは農業指導も実施しています。

播種機の使い方指導

収穫増に喜ぶ農家

（2）　ストゥントレン州における不発弾機械処理を伴う復興支援事業（地図内④）
ア　2021年～2024年にかけて、ホーチミンルートと呼ばれる旧国道沿いのクラスター子弾の不発弾で汚染された土地を約1400ヘクタール安全化することを目標に活動を継続しています。

灌木除去機による伐採作業

不発弾の爆破処分

爆破処分後の成果の確認

住民（子供）の笑顔に癒されます

イ　ストゥントレン州におけるクラスター子弾・地雷等の処理事業成果
（2023年12月～2024年3月）

処理面積	クラスター子弾 （うち回収要請）	不発弾 （うち回収要請）	対人地雷 （うち回収要請）	対戦車地雷 （うち回収要請）	危険回避教育 受講者 （回数）
102．6ha	51個 （8個）	88発 （19発）	0発 （0発）	0発 （0発）	1，362名 （45回）

ウ　ストゥントレン州における農業支援活動

潅水パイプ設置指導

ボカシ肥料の製造と配布

カシューナッツの追肥

テーブルの上で育つ野菜

（3）　安全な村つくり事業：SVC（地図内③バンテアイミアンチェイ州）

ア　2023年度SVC事業は、既存道路の補強整備、暗渠の構築を行いました。

一次作業にて側溝整備と道路嵩上げを実施し、表土を均しました。

二次作業にて、その上にラテライト土を敷設し、良質な道路の完成を目指します。

破損及び一部埋没したヒューム管をボックスカルバートに架け替えました。

イ　安全な村つくり事業成果（2023年4月～2024年3月）

バンテアイミアンチェイ州	既存道整備	既存側溝整備	暗渠設置
	4　km	5　km	1箇所

（4）　農地整備支援事業：ABC（地図内②、③）

ア　2023年度農地整備事業をバッタンバン州とバンテアイミアンチェイ州にて展開しました。後者は、地雷処理事業で安全化された地域における復興支援です。土地所有者による事業開始前の安全祈願のおかげでしょうか、作業期間中は、機材の故障等もなく、最終的に計画以上の成果を収めることができました。

田圃の均平化により均等に水が行き渡り米の収穫高が増加

通称クルクルダンプと中型ドーザ（D-65）は機動性と運搬(押土）力を発揮

イ　農地整備支援事業成果（2023年4月～2024年3月）

水田の均平化	バッタンバン州	50．0ha
	バンティアイミアンチェイ州	16．6ha
農業用灌漑用水路	約2．0Km	
農道の新設	約1．7Km	

（5）　2024年カンボジア事業トピックス

彼女の名前はチャンティー！！

2017年にバンテアイミアンチェイ州に移って以来、JMASで勤務している隊員です。空白期間に他事業地での勤務となっても、必ずJMASに帰ってきてくれます。理由を聞くと:①プロジェクトの雰囲気が良い、②JMASは、現場で作業する隊員の気持ちをよく理解してくれる、③専門家が現場で指導してくれるので、安心して作業が出来る。

現在は探査班で副チームリーダーを務めています。

2023年度
バンテアイミアンチェイ州
事業の安全祈願

・ラオス人民民主共和国

1　現地の声

福山喜文代表

　2006年に開始されたラオスでの不発弾処理事業はその後も継続し、皆様のご支援と諸先輩方のご努力を得て、2023年3月には無事3年次事業が終了しました。この間、現地で不発弾処理を行っているラオスの隊員とともに、ラオスの発展を阻害している不発弾汚染地域のクラスター子弾等の処理を促進することができました。しかしながら、ラオス国内の不発弾処理は未だ1%にも満たない状況にあり、海外から多くの支援を必要としております。このため、ラオスでの活動を努めて早期に再開して、日本人がラオスの人々とともにあることを示せれたらと思います

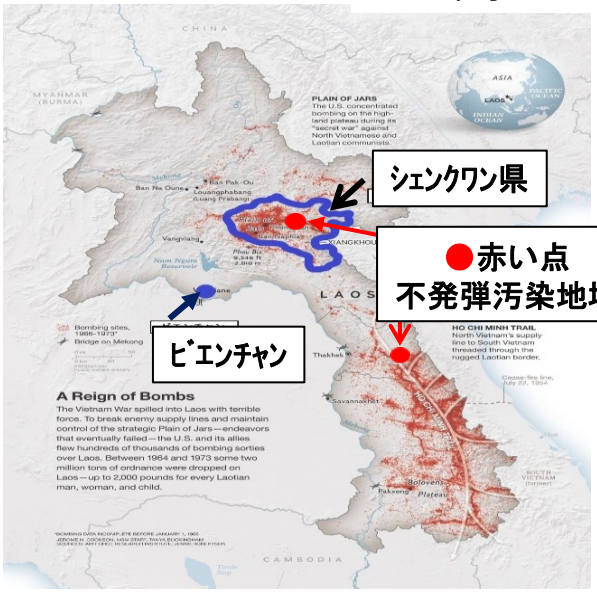
亀井英紀
機械運用専門家

　また一年、クラスター子弾を始めとした多くの不発弾がシェンクワン県の大地から除去され、住民の方々の安心の輪がまた少し広がりました。日々の生活を安心して送れるようになるまで、戦争は終わりではありません。
皆様の引き続きのご支援、よろしくお願い申し上げます。

福栄重
事業主任兼会計主任

　2022年3月に開始した「シェンクワン県におけるクラスター子弾等機械処理加速化事業（3年次）」も2023年3月末に有終の美を飾りました。コロナ禍での3ヶ年事業でしたが、関係機関等との調整も円滑に進めることができました。その後の事業が採択されず空白期間を生じておりますがラオスにおける不発弾等処理の必要性は高いままです。関係者皆様のラオスでの活動再開へのご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

ラオスの不発弾汚染状況と活動地域



● 世界有数の不発弾汚染国
- 第2次インドシナ戦争で約200万トンの 空爆を受ける
- 約2億7千万発のクラスター子弾の内約8千万発が不発弾
- 国土の約3分の1にあたる870万haの地域が汚染地域

● 不発弾処理の状況
- 1964年から2022年までの不発弾による死傷者数は50,000人以上
- 1996年から2022年までに処理した不発弾の数は1,911,826発
- 同期間に安全化された面積は87,088ha（約1%）

2　事業活動

シェンクワン県におけるクラスター子弾機械処理加速化事業

2022－2023事業は、3郡6村で100haの汚染地の安全化、指導員の養成、クラスター子弾除去機統括管理者の育成を目標に事業を実施してきました。1ヶ月の事業延長により安全化地域目標を達成するとともに、UXO Lao自らが除去機の操作・整備要員を育成し除去機の総合運用・管理が実施できる技術と能力を移譲できたと考えています。

残念ながら、ラオスにおける2023－2024事業は、一時中断しています。

探査前の伐採作業の様子

第一次探査の様子

第二次探査の様子

掘開したクラスター子弾
BLU26

処理中のクラスター
子弾除去機

破砕された信管の回収

遺跡周辺の探査

処理地から発見された100
ポンドWPM47

100ポンドWPM47の
爆破処分の様子

専門家による指導員教育

在ラオス日本国大使の表敬訪問

JMAS理事長の現場視察

副県知事からJMASへの感謝状

ハイニエン村小学生の歓迎の踊り

陣中見舞いに訪れた土地所有者

3　事業成果

現地スタッフの新型コロナ感染・マラリア感染、車両燃料の不足等により事業目標の達成に様々な影響を受けた2022－2023年の活動でしたが、1ヶ月の事業延長により目標を概ね達成できました。対象期間内の主要な成果は次の通りであり、前年度成果の92．3%で3ヶ年事業を終えました。
（2022年4月～2023年3月）

項　目	機械処理数	爆破処理数	処理地	処理面積
成　果	339発	692発	3郡・7村	105．2ha

処理地への移動経路を整備しました

処理地は安全な水田になりました

処理地は野菜畑に開墾中です

4　2022～2023ラオス事業トピックス

JMASは、6年間にわたる除去機によるクラスター子弾等の処理を通じてUXO Laoの隊員に除去機の操作、整備、管理等について技術移譲を行ってきましたがその集大成としてこれまで育成した操作・整備要員10名の指導能力を向上して指導員として養成するとともに指導員の中から更に2名を選考し除去機の統括管理者として新たに育成しました。

・パラオ共和国

1　現地の声

現地代表　武　洋一

　2012年に開始されたパラオ事業も残り1年8か月となりました。
　ヘルメットレックの爆雷処理は順調に進んでいますが、新たなERW（爆発性戦争残存物）として小銃弾3万発以上が発見されるなど、我々に対する期待は衰えを知らず、行く先々で活動継続を希望されます。新しい事業を考えつつ、安全第一で業務を遂行したいと思います。

ERW専門家（主任）　篠山　浩司

　今期はレンジャーの更なる技術向上と安全、健康に留意して頑張ります。

ERW専門家　橘　利至

　現地パラオ　コロールレンジャーの移転教育も最初は言葉の壁などもありましたが、今ではだいぶ理解してくれて捜索などで一緒にダイビングしても任せられるようになってきました。ヘルメットレックの爆雷もあと残りわずかになりましたが、安全に作業を進めていきたいと思います。

ERW専門家　杉本　鋭晃

　パラオでの事業に参加し2年目を迎えることが出来ました。引き続き安全に業務遂行できるように頑張って行きたいと思います。

パラメディック　星野　光男

　10か月振りにパラオに戻ってくると会う人達に「おかえりなさい」と温かい言葉をいただき、JMASがパラオに根付いていると背中を押してもらっていると強く感じます。がんばろう！

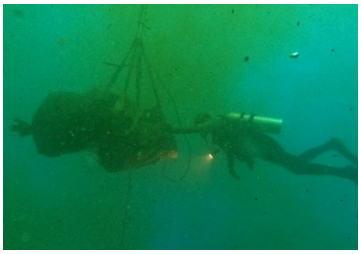
2　不発弾（ERW）処理事業

　2019年3月から、爆雷500発余りを積んだままマラカル湾内に沈んだ旧日本海軍の輸送船（通称「ヘルメットレック」）の爆雷処理を実施しており、2024年3月末時点で、残り約220発まで処理が進みました。

　爆雷は積み重なった状態で癒着が進み、船倉内で引き剥がすと原型をとどめないことから、船倉内で梱包し、水中作業場で一時保管したのち、処分場まで海上及び陸上を移送して焼却処分します。

　1か月の処分能力が12発から20発に向上したので、来年5月には終了できる見込みです。また、マラカル湾北西部でも3万発以上の小銃弾が発見されており、今後この海域の探査、回収処分を、「ヘルメットレック」の爆雷処分と並行して実施するとともに、パラオ政府からの要請によるその他の不発弾処理も実施していきます。

第2船倉内の爆雷


船倉から作業場へは、バルーンを使って爆雷を移動します

作業場での梱包爆雷の保管状況

筏のクレーンを利用して爆雷を作業艇に積みます

作業艇で、カムサン港まで輸送します

陸送のため、港でトラックに移載します

処分場でトラックから降して焼却準備をします

焼却中

焼却後の爆雷

3　技術移転教育

　2019年3月に開始したコロール州レンジャー6名に対する教育は5年目となり、大量の小銃弾を発見するなど海中での不発弾探査・処理技術は著しく向上してきました。今後は、今期までに培った技術の上に、基幹となるレンジャー隊員による他隊員への教育指導要領の習得を狙いとした教育を実施していきます。

ジャックステー捜索法実習

ヘルメットレック
モニタリング実習

海底地形完熟訓練

4　2022～2024　パラオ事業トピックス

　大戦中の1944年3月末に、パラオは米軍の大空襲を受け、約2，800トン（GICHD*[1]推定）に及ぶ爆弾、砲弾等が投射されました。
　パラオにおける組織的な不発弾処理は、国際的な協力により2009年に開始され、**JMASも2012年から参加**し、大きな成果を上げていますが、先日もコロール州レンジャーの訓練中に、水深15mの地点で大量の小銃弾を発見し、付近一帯を捜索したところ、33，000発を超える小銃弾を発見、処分しました。
　これは氷山の一角であり、今も多くの爆発物が海の中に眠っています。
　我々の出番はまだまだ続きそうです。

大量に発見された
6.5㎜小銃弾

水中作業場で一時保管中
の6.5㎜小銃弾移送用袋

20㎜機関砲弾

*1:GICHD：Geneva International center of Humanitarian Demining
ジュネーブ人道的地雷除去国際センター

▪ミクロネシア連邦

1　現地の声

現地代表　高木 雅弘

現地のチュークばかりではなく、首都があるポンペイの皆様からも絶大な歓迎を受け、JMASに対する期待の大きさを痛感しています。地元の期待が大きい戦没船からの漏油回収作業を進め、環境保護に貢献したいと思います。

専門家　後閑 有治

Rananim（ラナニム）！　チュークよりこんにちは。現役時代に身に付けた潜水技能をミクロネシアと日本の友好関係のために役立てて貢献するとともに、80年前のこの場所での出来事について考える機会としたいと思います。

専門家　南　智行

チュークの海を見て、この美しい海を永遠に残す仕事に携われたことを誇りに思いました。私にどれだけのことができるのかは分かりませんが、仲間と一緒にこの素晴らしい海を未来に残してゆきたい。

専門家　関根 健司

千葉県習志野市出身、陸自（空挺団）OB 58歳です。深深度潜水作業を行う上で、健康管理や気象・海象条件の把握や物心両面の準備を確実にして、チームメンバーとともに頑張って行きます。

総務・会計担当　福山 一徳

南の島で人生を見つめ直しているところです！

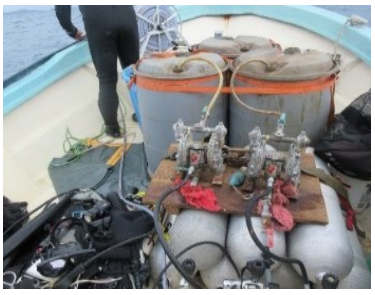
２ ミクロネシア連邦チューク州における戦没船油漏れ対策事業

先の大戦中、旧日本海軍の拠点であったチューク（旧名トラック）諸島は、昭和19年2月17日・18日に米軍による大規模航空攻撃を受け、タンカーを含む多くの艦船が沈没しました。戦後80年を経た今、艦船構造材の腐食劣化・崩壊が進むことでこれらの戦没船から油が漏れ出し、美しい海を汚染しつつあります。
JMASは、2017年からこの地において油漏れ対策事業を行っています。

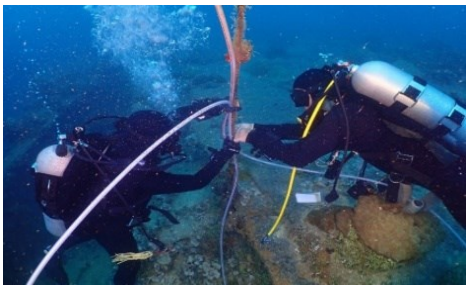
事業内容と成果

(1) 漏油回収量
- 2022年度事業： 14,712L
- 2023年度事業： 5,020L

★事業開始以来の漏油回収量
合計 33,575L



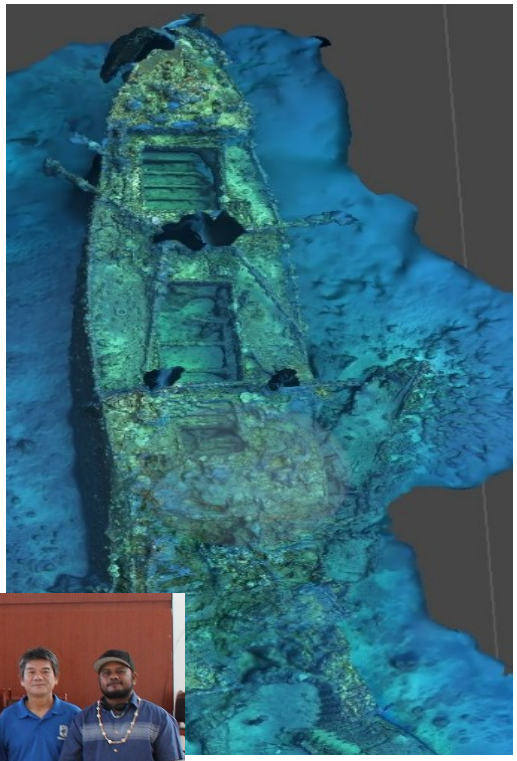
(2) 周辺海域の探査・海底状況図の作成 ⇒ 2023年7月、州政府へ提供した。
(3) 戦没船の継続的なモニタリング ⇒ 継続中異状なし。
(4) 戦没船の3D画像の作成 ⇒ 豪州NGO団体と協力して作成中
(5) チューク州職員等に対する技術移転教育 ⇒ 延べ14名に対し潜水資格を付与した。



３ トピックス

JMASと活動を共にする豪州NGOチームとともに

作業中の3Dモデル



技術移転者（州政府職員等）に対するダイビングライセンス授与式

2022年度事業終了に際し、州知事から感謝状を受ける

・本部

1　2022－2023

（1）　全般

ア　6月15日、第20回通常総会を開催し、令和4年度の事業計画等が承認されました。コロナ規制が緩和され、久しぶりに着席形式の懇親会を行いました。

第20回通常総会

総会懇親会

イ　11月21日、20周年記念事業の一環として、グランドヒル市ヶ谷において感謝状贈呈式及び記念祝賀会を開催しました。

感謝状贈呈式

20周年記念祝賀会

感謝状贈呈式においては、長期会員（個人4名・法人5団体）、継続寄付者7名、特別支援企業1社、貢献度大の元役員・職員3名に対し感謝状を贈呈させて頂きしました。記念祝賀会は感謝状受賞者及び元役員・職員71名の参加を得て盛大に開催しました。当日は、4つの事業地（カンボジア、ラオス、パラオ、ミクロネシア）と祝賀会場をオンラインで結び、現地からのメッセージの配信も行いました。

（2）　広報

ア　8月2日、奈良県西大和学園の高校生23名が、企業訪問の一環として、JMAS東京事務所を研修しました。JMASやNPOに関する講師の説明に熱心にメモを取っていました。生徒からは活動資金、処理の安全性の確保やJMASの職員に必要な能力等について質問がありました。

熱心に研修する生徒たち

イ　日本最大級の国際協力イベント（外務省主催）の「グローバルフェスタ2022」（10月1～2日：東京国際フォーラム）に出展しました。
　コロナの影響が少なくなったせいか12，000名を超える来場者がありました。

職員から説明を受ける生徒の皆さん

ウ　陸上自衛隊中部方面隊音楽隊クリスマススペシャルコンサートが、12月24日（土）、国立京都国際会館メインホールで開催されました。当日は午前・午後2回の公演があり、各約2，000名の入場者がありました。JMASは後援会のご厚意により会場入り口にブースを出展しました。また後援会には同志社香里中学校・高等学校の生徒6名の支援を受けJMSの活動に対する募金活動を行って頂きました。

後援会が行う募金活動の支援をして頂きました

エ　穴見財団の助成を受け、活動報告・活動パンフレットを作成・印刷し、各種イベントで配布するとともに自衛隊全86箇所の駐屯地に送付しました。

2　2023－2024

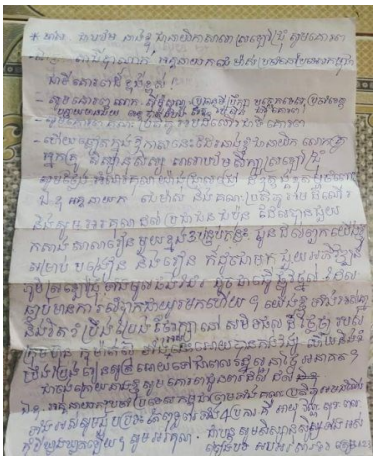
（1）　全般

ア　6月13日、第21回通常総会を開催し、令和4年度の事業成果及び令和5年度の事業計画等について承認されました。また、理事長がミクロネシア事案の概要および再発防止策について説明し、N連事業の年度内の事業再開を目指し最小限の態勢をもって準備を行うことを報告しました。

第21回通常総会

理事長による説明

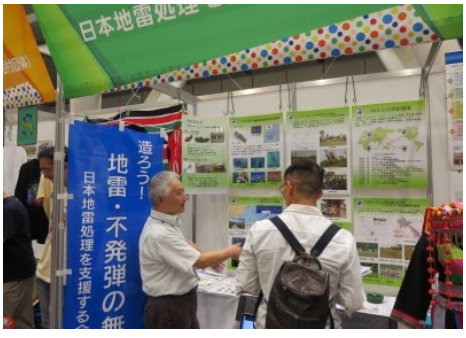
イ　2022年度に実施したクラウド・ファンディング事業に際しご寄付を頂いた方々へのリターンとして、4月8日と4月22日の2回、オンライン報告会を実施しました。現地レポートは、カンボジアバンスナオ小学校から中継し、学校や新旧のトイレ・手洗い場等の状況、校長先生からのメッセージ、子供たちからのお礼の歌のプレゼント等を寄付者に伝えることができました。皆様のご支援に心から感謝致します。



校長先生からのメッセージ

（2）　広報

ア　国際協力イベント「グローバルフェスタ2023」（9月30日～10月1日：東京国際フォーラム）に出展しました。今年は、ロシア・ウクライナ情勢もあり、来訪者の関心が高いと感じられました。また、社会科の「社会貢献学習」の事前学習の一環として多くの生徒さんが来場されました。



イ　埼玉県の最大級と言われるイベント（岩槻市主催）の「岩槻やまぶきまつり」（10月22日：岩槻文化公園）に初めて出展しました。会場は公園全体を利用した広い会場であり、ダンス等のイベントの他、食品販売を含めた出店が多く、家族で楽しめるフェアでした。JMASは、消防署、埼玉県警や自衛隊家族会の並びの一角で出展し、来訪者に当会の取り組みをご理解いただきました。

また、埼玉県16区（岩槻市含む）選出の土屋復興大臣（日本ラオス友好議員連盟会長）が、JMASブースに立ち寄られ、当会の活動にご理解とご支援の意を頂くことができました。

防護服を着て探査体験

ウ　外務省が広報動画として2021年に作成した「フロントランナー（平和構築）」の続編「ファースト・ステップ第3作目（世界をつなぐ平和の願い）」の製作に台本監修、資材貸出で協力しました。地雷問題を題材にした感動的な作品に仕上がっています。

動画は3月24日から配信され外務省ホームページからご覧になれます。是非、ご覧ください。

エ　グローバルフェスタの開催に合わせて、外務省フォトコンテストが行われています。当会は2021年から3年連続で入賞しています。

2022年「触らず連絡するね！」

2023年
「一冊の教科書が心をつなぐ」

（3） その他

ア　カンボジアCMAC長官、ラオスNRA副長官等来訪

　１１月８日、CMAC長官が事務所を訪問され、2025年対人地雷完全撤廃に向けた事業協力及びウクライナ支援等について懇談しました。長官からは2024年後半にシュムリアップにおいて関係者による式典が開催されるとの情報提供がありました。

　また、２月７日にはNRA副長官・UXO Lao長官が訪問されUXOに関する新技術等について意見交換しました。

CMACラタナ長官との懇談

NRA副長官等との意見交換

イ　２月３日～１２日の間、穴見財団の支援を受け、理事長以下３名がUNMAS、GICHD等の国際機関やポーランド陸軍工兵部隊等を訪問し、ウクライナ復興支援に係る現地調査を行いました。地雷・不発弾処理における各国の取り組みや今後のウクライナ支援における課題等を把握することができました。

ポーランド陸軍との意見交換

ウ　３月25日、陸上自衛隊施設学校及び武器学校等と地雷・不発弾処理に関する合同勉強会を実施しました。官民の地雷・不発弾処理についての発表、意見交換を通じ、相互に理解・認識を深めました。

エ　将来ビジョン「JMAS2030」に向け事業・研究、会計・広報等活動基盤の区分ごとに担当を決め、具体的な実施項目、時期、経費等について検討しました。今後、2024年度の事業計画に反映できるもの、中・長期的に検討を深化するものに分けて、具体化を図っていきます。特に、新たな枠組みによる事業の実現のためには、N連事業の継続、人材及び財源の確保、会勢の維持・拡大が必須となっています。

▶会勢概況（令和6年3月31日現在）

会　員	個人正会員231名	法人正会員42社	賛助会員11名
寄附件数	88件		

特別協力企業・団体一覧

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	株式会社IHIエアロスペース	34	仙台駐屯地修親会
2	IOS株式会社	35	善通寺駐屯地修親会
3	株式会社IDホールディングス	36	ダイキン工業株式会社
4	青森駐屯地修親会	37	大和探査技術株式会社
5	明野駐屯地修親会	38	多賀城駐屯地修親会
6	アサガミ株式会社	39	株式会社ダスキン龍ヶ崎
7	旭精機工業株式会社	40	中国化薬株式会社
8	有限会社アップワールド	41	中部方面曹友会
9	出雲駐屯地修親会	42	土浦駐屯地修親会
10	伊丹駐屯地修親会	43	デジタルリサーチ株式会社
11	伊丹駐屯地曹友会	44	豊田通商株式会社　自動車本部
12	岩手駐屯地修親会・曹友会	45	ニッセイ保険エージェンシー株式会社
13	小原台クラブ	46	日本電気株式会社
14	海田市駐屯地修親会・曹友会	47	函館駐屯地修親会
15	春日井駐屯地修親会	48	パブリックソース財団
16	株式会社絆フレンズ	49	深田サルベージ建設株式会社　東京支社
17	北千歳駐屯地修親会	50	藤倉航装株式会社
18	北日本銀行	51	富士修親会
19	株式会社グッドウ	52	富士通株式会社
20	株式会社クレスコ　one%club	53	公益財団法人　防衛基盤整備協会
21	高知商業高校	54	一般財団法人　防衛弘済会
22	コマツ	55	北海道日油株式会社
23	ｺﾏﾂｻｽﾃﾅﾋﾞﾘﾃｨ推進本部　地雷除去ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ室	56	幌別駐屯地修親会・曹友会
24	三木会	57	マイクロン・コー株式会社
25	島松駐屯地修親会	58	前川原駐屯地修親会
26	尚友会	59	特定非営利活動法人松戸あんしんｻﾎﾟｰﾄﾈｯﾄ
27	昭和コンクリート工業株式会社	60	松戸駐屯地修親会
28	伸誠商事株式会社	61	株式会社ミレデザインズ
29	神町駐屯地修親会	62	株式会社武蔵富装
30	新陽株式会社	63	陸栄会
31	株式会社ステップ	64	陸上自衛隊中部方面音楽隊後援会
32	全国防衛協会連合会女性部会	65	留萌駐屯地修親会
33	仙台駐屯地業務隊OB会	66	レディス枚方21

寄附型自動販売機協力企業

連番	企業・団体名	連番	企業・団体名
1	アサガミ 株式会社	5	株式会社 通信設備エンジニアリング
2	アサガミプレスセンター株式会社	6	昭和金属工業 株式会社
3	アサガミプレスいばらき株式会社	7	マイプリント株式会社
4	旭精機工業株式会社		

▶ご支援のお願い

JMASの活動は、皆様からのご支援に支えられています。
ご支援、御協力宜しくお願い致します。

正会員、賛助会員として参画頂ける方

正会員	賛助会員
個人：1万円／年	1口千円以上／年
法人：1口（5万円以上）	税法上の「寄附金控除」の対象です

（注）
正会員：法人の目的に賛同して入会した個人及び団体で、総会において議決権を有します。
賛助会員：法人の事業を賛助するため入会した個人及び団体で、総会において議決権を有しません。

ご寄附を頂ける方

ご寄附
3千円以上※
税法上の「寄附金控除」の対象です

※当会は認定NPO法人ですので税法上の寄附金控除対象です。
なお、「認定更新申請」の条件を満たすためには、3千円以上のご寄附が必要となります。ご協力をお願いします。

ご入会・ご寄附の方法

JMASホームページ→ご寄附・ご支援のお願い → 入会申し込みで手続き
（ または寄附申し込み）

お振り込み方法

郵便振込の場合

口座名：　特定非営利活動法人
　　日本地雷処理を支援する会
口座番号：00170−1−13709

＊郵便振込用紙(赤色)を利用し、ゆうちょ通帳・カード扱いで振り込んで頂くと手数料はかかりません。

銀行振込の場合

銀行名：三菱UFJ銀行
支店名：市ヶ谷支店（店番014）
口座名：特定非営利活動法人
　　日本地雷処理を支援する会
（仮名標記「トクテイヒエイリカツドウホウジン ニホンジライショリヲシエンスルカイ」
口座番号（普）：1320125

他にもこんなご支援の方法があります

☺書き損じ葉書をお送り下さい
　書き損じ葉書郵送用として、返信用封筒をお送り致します。

☺**寄附型自動販売機の設置ご協力のお願い**
　JAMS寄附型自動販売機の売り上げの一部は、当会への寄附となり、世界の地雷・不発弾処理活動に活用させて頂きます。

〇設置、置き換え無料です。
〇手間や費用はかかりません。
〇全国何処でも設置可能です。
〇寄付型自動販売機設置に関するお問い合わせ先
　特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会
　フリーダイアル：0120-937-650
　サイドアドレス：　http://kjf.or.jp/

▶研修・見学・講演・取材申し込み受付

東京女学館中学校の生徒さんたちによる
JMAS研修

・東京本部における研修
・海外現地代表事務所における研修
・海外の処理現場等における見学
・講演会の実施
・取材等
ご希望ありましたらご連絡ください。

（お問い合わせ先）
認定特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会　事務局
〒102-0074
東京都千代田区九段南3-8-10
川内(かわち)ビル10階
TEL：03-6261-7851
FAX：03-6261-7852

認定特定非営利活動法人

JMAS 日本地雷処理を支援する会

Japan Mine Action Service

〒102-0074
東京都千代田区九段南3-8-10
川内ビル10階
TEL　:03-6261-7851
FAX　:03-6261-7852
Email　:jmas-hq@jmas-ngo.jp
URL　:https://www.jmas-ngo.jp

アクセス
市ヶ谷駅から徒歩5分
（総武線各駅停車、有楽町線 、南北線、都営新宿線）